

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇建築解体現場からの塩ビ管排出調査結果を日本建築学会で発表

塩化ビニル管・継手協会 総務部 石崎 光一

## ■随想

◇フィレンツェ便り（その1）－アレツツオの馬上槍突き競技－

関東学院大学 織 朱實

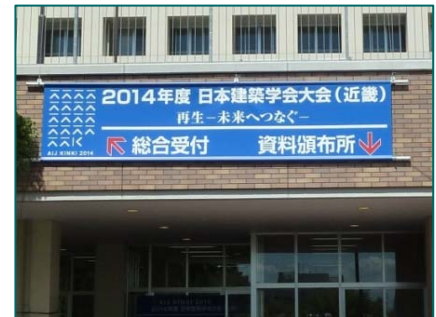
## ■編集後記

## ■トピックス

◇建築解体現場からの塩ビ管排出調査結果を日本建築学会で発表

塩化ビニル管・継手協会 総務部 石崎 光一

塩ビ管のリサイクルに関する研究を2014年度日本建築学会大会(近畿)で発表する機会を得ましたので紹介させていただきます。塩ビ管・継手は、塩ビ樹脂の使用全体に占める割合が高く、かつ主に単一素材からなる製品であることから、塩ビ管のリサイクルは塩ビ製品全体のリサイクル推進のために重要な位置づけにあります。



まず本研究の目的と体制を説明します。当協会では、平成10年から塩ビ管のリサイクル事業を進めています。使用済み塩ビ管の受入拠点を全国に配置し、受入れた塩ビ管廃材をリサイクル塩ビ管として水平リサイクルしており、各方面からも高い評価をいただいています。今回、このリサイクル事業が開始から15年以上経過したことから排出量の推定方法の見直しの検討、及び塩ビ管の再資源化推進を目的に、使用済み塩ビ管の排出実態を改めて調査することとしました。

本研究では、塩ビ管の主要な用途のひとつである建物について、「解体工事に伴う塩化ビニル管・継手の排出実態調査研究」と題し調査しました。調査、解析は建築廃棄物の調査で数々の実績のある明治大学小山教授と(株)イオリナにお願いし、また実際の回収作業は(有)コイデ解体が行いました。今回の日本建築学会での発表に至ったのも、万全の体制で進めることが出来たことによるもので、関係者の方にこの場を借りて感謝申し上げます。

大会は、神戸大学の鶴甲・六甲台キャンパスで、9月12日～14日の3日間の日程で開催されました。発表部門は、「材料施工」「構造」「環境工学」「建築計画」「都市計画」等に分かれています。当協会の発表はテーマ総数700の「材料施工」の部門です。本研究報告は、以下の4テーマとして調査方法、内容などに分割し、最終日である9月14日の午後から発表しました。

テーマ：解体工事に伴う塩化ビニル管継手の排出実態調査研究

その1. 研究概要 発表：村上泰司 ((株)イオリナ 社長)

その2. 排出量調査結果 発表：石崎光一 (塩ビ協)

その3. 廃塩ビ管の状態調査 発表：小出正人 ((有)コイデ解体 社長)

その4. 排出量原単位と作業時間調査結果

発表：山口晃平 (明治大学理工学部建築学科 専任助手)

発表の概要は、10件の調査対象物件に対し、解体工事が始まる以前の事前調査から塩ビ管の排出量、状態、分別可能性などを調査、解析結果を報告し、全体的なまとめとして塩ビ管排出量の6割以上がリサイクル適材品であり、簡易処理を行えば9割以上がリサイクル可能と推察されるとするものです。

発表会場である神戸大学には、発表者・指導者そして建築関係の方と多くの方が集まってきており、また将来の日本の建築分野を支えていく若者も多く、更には大学内であることもあり、アカデミックな雰囲気と活気に満ち溢れていました。こうした雰囲気の中、村上社長から山口助手まで続けて発表し、それからまとめて質問を受けましたが、他の発表に比べ活発な質問があり、関心の高さを改めて実感しました。質問には、「建築された時期で、塩ビ管の排出量に差異はあるか?」「解体作業では、リサイクルし易いように作業標準は作っているのか?」や、「廃プラ全体に対して、塩ビ管のリサイクルは進んでいるのか?」等がありました。特に最後の質問に対しては、皆さんに改めて「塩ビ管のリサイクルが進んでいる実態と、今後更に進めていく為の課題」を説明することで、更に理解を深めてもらうことが出来たと感じています。

## ■ 随想

### ◇フィレンツェ便り（その1）－アレッツォの馬上槍突き競技－

関東学院大学 織 朱實

8月から短期在外研究としてフィレンツェに滞在することとなったので、短い期間ですがフィレンツェをはじめとするトスカーナ地方の様子をこれから順次ご紹介したいと思います。

まず、最初はフィレンツェ北東約70キロ、人口12万人弱の都市アレッツォ（Arezzo）。アレッツォは、小さな町ながら歴史が古く、紀元前エトルリア時代までさかのぼる古い街です。イタリア三大詩人であるペトラルカや、ウフィッツィ美術館を建設したヴァザーリ、音階の「ドレミ・・・」を発明したグイド・モナコなど著名人も輩出しているそうですが、最近では、映画「ライフ・イズ・ビューティフル」の舞台となったことで知られています。また、月一回開催される骨董市も、その規模が世界一ということでも有名です。そのアレッツォの市民が、一番燃えるのが6月と9月の第一日曜日に開催される『馬上槍突き競技(Giostra del Saracino)』。日本の流鏝馬に似た競技で、馬上からサラセン人を模した人形が持つ的を射て、その点数を競うものです。この競技は、街を大きく4つの地域に分け、各区から2人の騎馬選手を選出して競い合います。



この槍突き、一見簡単そうなのですが、競技場となる中央広場がとんでもなく傾斜しているのでバランスを取りながら馬を駆けるのが難しそうなうえに（傾斜があるからこそ、



ライフ・イズ・ビューティフルで主人公が自転車で疾走するというシーンがぴったりくるのですが)、命中すると人形が回転し、反対の手にある鎖玉が襲ってくる仕掛けになっているので、一気に駆け抜けなければならない。技術と勇気が必要な競技のようです。なにより驚かされるのは、この競技にかける4地区の人々の意気込み！前日から、各地域ごとの前夜祭が開催され、1000人以上の規模の食事

会、地区ごとに色分けされたスカーフをみんな思い思いのスタイルで身に着け、地域の旗が掲げられ、町中が4色にくっきり分けられ、大盛り上がりです（昔の早慶戦のような雰囲気ですね）。

試合に先立ち、自分の地区の旗に先導され、それぞれのカラーの中世の装束に身を包んだ人々が、鼓笛隊の演奏に合わせて町中を行進します。お姫様も王子様も騎士も王様も司教も、古式にのっとり宣誓を行い、ミサを受けと、中世の世界にタイムスリップしたようです。もっともこのあとイタリアでお祭りといえば中世の仮装と地域の旗、ということで何度となく見ることになるのですが（イタリア人が仮装していると、さすがにしっくりきて、仮装という感じがしないのですが、日本人が昔の仮装をしていると違和感があるのに対して街並みが中世のままというのが大きいのでしょうか）。行進では、大きな旗を宙に投げつけるトスカーナの伝統的な舞いも披露され、路上で見学している人たちは大喜びです。



イタリアに来てびっくりしたのが、自分たちの地域への想いが強いことです。馬上槍突き競技会も、観客席は4地区に色分けされ、それぞれ相手方へのブーイング、挑発、自分たちの騎士への熱烈な応援と、本当に熱いです！私は、偶然個人宅のテラス観覧席を前日に入手することができたので、上から全容を眺めていたのですが試合そのものより、観客席のやり取りが面白く、まさに一触即発の様子！『ロミオとジュリエット』の背景を実感



することができました。この調子なら、地区同士の争いで、殺し合いが発生するのもあり得ると思いました（シェイクスピアは、英国人なのにイタリア人のこの郷土愛をよく理解していたもんだ、と）。警察、救急隊が待機しており、競技前に女の子同士の小競り合いで、すでに救急隊が発動していました（お酒を会場に持ち込むのは厳禁、というのも納得です。これでアルコールが入ったら大乱闘になります）。

今年は、赤チームのフライングがあり、物言いがついたりして1時間の予定の競技が3時間と予定外の長さでしたが、結果は、青黄のユニフォームの地区の勝利に終わり、大歓声の中、当該地区では夜遅くまで戦勝パレードが繰り広げられていました。もちろん、子供たちのヒーローは騎士！これだけ地域で燃えるお祭り、参加者である鼓笛隊、騎士、お姫様、どれもきっと地域の子供たちにとっては憧れの英雄なのでしょうね。お祭り参加者が、みんなかっこよく見えるのは、日本でもイタリアでも同じですね。羨望のまなざしで見ている少年たちも、数年すれば地元のお祭りのヒーローになっていることでしょう。



熱いお祭りを紹介しましたが、次回は、こちらは静かな神聖な雰囲気のリッカのサンクローチェのろうそく祭りの様子をご紹介しますと思います。

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

秋分の日も過ぎ、いよいよ秋の季節になってきました。季節に誘われ、ハイキングに出かけるための足慣らしにと、この週末、近くの手賀沼に散歩に出かけました。周辺の田んぼでは稲の刈り取りが行われていて、稲の香りが漂う土手の上には、サイクリングやジョギングはもちろんのこと、思い思いのスタイルで散歩を楽しむ多くの人がありました。まさに、スポーツの秋を感じました。(HI)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)